

ふるさと応援団員からの便り

四万十市のみなさまへ

一條 實綱

東京都杉並区

まず、この度の東日本大震災で被災に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

今回の土佐一條公家行列藤祭り開催に際し、父である一條家第28代当主があいにく都合で訪問できなかつたため、息子の私が母とともに東京の杉並区より参加することとなりました。

約550年前に、先祖である一條教房公が土佐中村へ下向したと聞いております。

土佐一條は私の分家に該たりますが、現時点では断絶しています。

今回の訪問の折、四万十市より熱烈な歓迎をしていただき、母子ともども感激しております。

元来私は雨男でして、案の定、当日は降雨がありました。市民のみなさまの日頃の御協力の賜物により、無事お祭りが敢行されました。

成人式以来の貴族の衣冠束帯を着装し、新聞記者のインタビューを受けたり、馬にまたがり、山藤の咲く京を模した碁盤の目を通り、練り歩いたりしました。日頃東京で過酷にしているだけではまず経験できないような貴重で優美な体験ができ、ゴールデンウィークの良き思い出となりました。



5月の爽やかな陽気の下、当家の家紋である一條藤が染められた紫色ののぼりがはためく中、行列は出発しました。沿道の小さいお子さん達、障害のある方々、病院で療養中の方々を馬上から拝見しながら、約550年前、京都が応仁の乱の戦火で混乱する中、私の先祖がどのような思いで土佐へ下向したのか、中世の歴史に思いを馳せました。商店街の賑わい、一條神社の御祭神への玉串拝礼、玉姫の美しい御輿等、今もお祭り当日の出来事が目に焼き付いております。

今回の震災によって、明治以降の近代化の中で忘れ去られてきた古代日本人の有していた自然や超然なるものへの畏怖心を取り戻すきっかけとすべきだと述べた学者がおります。

このたびの公家行列藤祭りはいわば神事を兼ねた町興しの側面があり、大震災を経験した日本人が自然に相対峙する際の心の持ちようを考える時に大いに有意義となるのではないでしょう。

最後に、今回の訪問に際し、田中市長はじめ、一條神社川村公彦宮司、澤田勝行さん、商工会議所、青年会議所ほか祭り実行委員会のみなさまに対し感謝の念が堪えません。ここに厚く御礼申し上げます。

3万6千人の市民がいらっしゃる四万十市が、聖川・四万十川を戴き、末永く御発展されますようお祈りするとともに、今回の訪問により四万十市が私どもにとって京に次ぐ第二の故郷となりましたことを非常に嬉しく、また誇りに思います。

ふるさと応援団の輪が広がる

昨年8月から市外在住者を対象に募集を開始した四万十市ふるさと応援団。

入団申込者数は、6月20日までで510人になっていきます。

これまで市からは、インターネットなどを通して市の最新情報を随時お届けし、また団員の皆さんからは、本市に関するいろいろなご意見、アイデアをお寄せいただくなど、交流を深めております。

今後も引き続き、市のイベントや県人会、中村高校、幡多農高同窓会など、機会あるごとに積極的なPRを行い、サポーターの輪をさらに広げてまいります。

市民の皆さまには、ご親戚やご友人への呼びかけをよろしくお願いいたします。

〔団員の内訳〕

■地区別

- 関西 257人(50.4%)
- 関東 124人(24.3%)
- 四国 58人(11.4%)
- うち県内 28人(5.5%)
- その他 71人(13.9%)

■入団のきっかけ

- 市出身者 80人(15.7%)
- ウルトラマラソン 37人(7.3%)

※()内は団員数510人に対する比率です

〔問い合わせ先〕

(市)企画広報課 秘書広報室 広報公聴係

☎(34)1810 FAX(35)0007

E-mail:kouhou@city.shimanto.lg.jp